

○「時代を語り建築を語る会(第16回)」報告

語り人：濱井義樹氏(呉市都市部参事)

～呉市における都市政策を語る一過去から現在・未来に向けて～

長年呉の都市行政に携わっている濱井氏と大学時代の恩師である石丸氏が対談形式で呉の都市問題等について語り合った。

主催：時代を語り建築を語る会実行委員会(代表：石丸紀興)

日時：2017年3月25日(土)18:00～19:45

場所：合人社ウエンディひと・まちプラザ



略歴：呉市出身

1980年 広島大学工学部建築学科卒、同年呉市役所に入り、営繕課、都市計画課、交通政策課、総務企画部等を経て2017年4月から現職。

広島県建築士会呉地区支部副支部長

☆ 呉市の歩み(濱井)

- ・明治の初年までは半農半漁の村落。明治22年に呉鎮守府が開庁し、同36年に海軍工廠が置かれ、本格的な海軍軍事基地となる。
- ・明治35年に呉市誕生。累次の基地拡張により人口が急増し、鉄道、電車、道路、水道等の都市基盤整備も進む。昭和3年に3町を合併。昭和16年には軍の意向により広村他1町を合併し、先の大戦中は広島をしのぐ人口40万人で敗戦を迎える。
- ・戦後は中心市街地が空襲で焼け野原となり、英連邦占領軍に広大な軍用地等を接収されたため人口も15万人に激減する。
- ・昭和25年に旧軍港市転換法(以下軍転法)が公布。軍用地の民間への払い下げが行われ、造船・鉄鋼・機械金属・パルプ等の企業が進出し、海軍工廠時代の技術力が活かされて有数の臨海工業都市へと発展する。
- ・昭和31年に周辺3町村を合併して旧呉市を形成。同年に英連邦軍撤退。同40年代半ばまでは景気が良かったが、以降は停滞気味。
- ・全国的な平成の大合併の動きの中で、平成15年に1町、同16年に1町、同17年に島しょ部6町を合併して今の新生呉市を形成。旧市と比べて区域が倍以上になり、人口も25万人に増えたが、島しょ部等では高齢化が進んで人口も減少し、現在は23万人である。

☆ 論点提起

- ・映画「この世界の片隅に」に戦前の呉のまち並みが描写。数多くの空襲を受けたことを含め、呉の案内をしたら?→大きな病院や軍関連施設等は空爆の対象から除外され、後に利用。
- ・軍転法の目的は、「旧軍港市を平和産業港湾都市に転換して平和日本の実現に寄与すること」であるが、呉市の対応は?→軍転法の制定が国有地・軍用地の払い下げに主眼があり、多くは民間に払い下げられたため、他市と比べると平和目的の取り組みが弱い。
- ・宝町の開発は?→平成6年に呉地方拠点都市地域に指定され、そのコア地区。埋立てを先行し、大和ミュージアムは後から計画。残地をいずみに売却し、ゆめタウンを建設。
- ・呉市は日本で2番目に長い海岸線を持つが、その活用策は?→島の海沿いの道は県道で維持管理しかない。ハード面の整備は無理なので、サイクリングの活用程度しか考えていない。
- ・空き家、斜面地対策は?→直近の住宅統計調査で空き家が2万8千戸と発表されビックリ。そのうち戸建ては1万2千戸。精査すると、完全な空き家は4千8百戸、そのうち修繕・解体等が必要なのは360戸程度。今年度から空き家の除却費用に助成制度あり。

☆ 会場からの質疑応答(質問者?→回答・濱井)

- ・中心商店街の空き店舗、空き地に対する都市施策は?→空き店舗になっても所有者に危機感がない。市が借りて物産店を出したが、採算が取れなければ続かない。最近代替わりして若いリーダーが育ってきたので、これからの期待したい。
- ・近代化遺産等が多くあるが、歴史まちづくり計画等の取り組みは?→工場群の中には戦艦大和を作った大屋根や砲塔・砲身を作った御影石の立派な円形ピット等が残っているが、稼

働中なので一般公開できない。自衛隊関係の施設も許可がなければ見学できない。古いものを残して市の資産として活用していこうという機運がまだない。

☆ まとめ (石丸)

宝が転がっていても、活用策を考える主体や組織・システムが育っていない感じ。観光ルートの開発や海岸線の提案等にもっと取り組んでほしい。

(編集委員 瀧口信二)

第30号 (平成29年7月15日)

○ 「時代を語り建築を語る会 (第17回)」報告

語り人：藤本昌也氏 (現代計画研究所会長)

～基町再開発をどのように発想・デザインしたか～

建築家大高正人のもとで、基町再開発計画に携わった経験を中心に大高正人の『思い』を振り返り、『今』の課題を熱く語る。

主催：時代を語り建築を語る会実行委員会 (代表：石丸紀興)

日時：2017年6月2日 (金) 18:30～20:30

場所：合人社ウエンディひと・まちプラザ



略歴：広島市出身
1962年早稲田大学修士課程修了後、10年間大高正人に師事
1972年現代計画研究所を設立、現在会長

☆ 大高正人の人物像—社会思想家と建築家の葛藤

・1960年代の高度経済成長期に主流であった楽観的なモダニズムに懐疑的。当時流行ったメタポリズムの建築思想で建築やまちづくりが進められることに警鐘を鳴らす。

・建築家には天空派と大地派があり、大高は大地派。天空派は高みに立って唯我独尊的な建築論を展開する人。大地派はその土地固有の自然や歴史・文化など地域に根差した建築づくりをする人。

・建築家の役割は、建築づくりを通して人々の幸福な世界を構築すること。一番大事なことは、デザインの出来栄ではなく、そういう「基本的スタンス」を堅持しているか否かである。

・被爆により困窮した人たちの生活環境を救済するという基町再開発が、社会的な共有財産となることを目指して、厳しい条件のなか果敢に取り組む。

・生涯自分の作品集を拒む。建築は社会における制作プロセスが大切であり、所有者 (管理者)・発注者・行政・施工者・利用者・地域住民など、多くの人に関わって作られるので、自分の作品とは言えない。



☆ 基町再開発計画の要点

・敷地 8.1ha に 3000 戸を収めるという当初の計画条件は市が設定。高層化で対応するしか方法はない。高層高密度の公営住宅の前例がないので、補助メニューを検討するため国のモデル事業に指定。前川事務所時代の公団晴海高層アパートや独立後の坂出人工土地などの実績が評価され、1968年に建設省の推挙で大高建築設計事務所が担当することになる。

・仕事を受けて早い時期に、南東・南西向き大きなスペースが内包できる今の屏風型配置計画案を思いつく。小学校・幼稚園、警察・消防署、地域の店舗等を含めて、住宅を中心としてまちを作るという建築家に突き付けられた大命題でもあった。

・設計の特徴は、高層住宅の居住性の確保と周辺環境と建築の調和をメインテーマに据え、ヒューマンスケールに配慮し、分節化した群造形を追求。階数も 20 階から 8 階まで、北から南に順次下げている。特に広島城の近くは城より低くしている。

・地上はピロティとして開放的にし、屋上も庭園として市民に開放される計画 (今は閉鎖)。もともと公園計画地に建てるため、周辺環境に十分配慮し、公共空間を多く導入する。

- ・将来的なニーズの変化にも対応できるように2層4戸を1ユニットとし、梁は偶数階のみで、柱間に耐震用の筋交いや壁がない。現在2戸を1戸に広げる改修がなされている。
- ・工期短縮のため当初の鉄骨鉄筋コンクリート造から純鉄骨造に変更。予算を削減するため、工場製作の鉄骨やプレコンなどは設計者が下請け業者を選定してコスト管理を行う。現在の建築生産システムであるCM（コンストラクション・マネジメント）方式の走り。
- ・設計中の地元住民との折衝において、中島市会議員の存在が大きい。設計の意図を理解し、責任をもって住民を説得。山田市長も「美しいアパートにして欲しい」と設計案を全面的に支持。二人の存在がなければ、この計画もとん挫していたかもしれない。

☆ 基町高層アパートの今後の展望

・時代の変化に耐えうる構造となっているので、管理運営面のソフト開発に期待。第3の公共が建物を所有し、空間の利用権を民間に賃貸するシステムができないか、法律家など専門家を交えて検討してほしい。例えば、広島城側は高級マンションにしたり、店舗フロアを入れたり、いろいろな可能性が秘められている。

・隣接する中層団地や高層団地内の店舗なども減築して順次公園に戻し、平和記念公園と中央公園の緑が一体となって原爆ドームの世界遺産のゾーンを広げていくビジョンを持っている。

このエリア一帯が平和の象徴的な空間であって欲しい。



中央公園将来イメージ

☆ 今日一番言いたいこと

・世界共通の普遍的な解を求めようとする近代主義より、地域独自の最適解を求めていく手法の方がよい。21世紀はグローバリズムとローカリズムの相克。社会思想について哲学的に難しく考えるのではなく、自分の職能と結び付けて日常的に考えて欲しい。

☆ 会場からの質疑応答

・ピロティと屋上庭園は公営住宅予算の枠外か？→ピロティは住居部分でないので公営住宅予算ではなく、住宅金融公庫からの融資。屋上庭園の方は特例加算の国の補助を適用。

・最近デベロッパーが不在とは？→地方自治体の財政事情の悪化や「官から民へ」の動きの中で、公的な住宅供給が減少。民間も地方の中小都市では採算が取れない状況にある。また街中の土地は細分化しているので再開発も進みにくい。

・軸線の考え方は？→軸線ありきの考え方は持っていない。南北の海と山に開けたランドスケープに配慮した結果、たまたま住棟配置の間に丹下軸線が入っていた。丹下氏は記念性を尊重するが、大高氏は目線の日常空間を大事にする。

・敷地内の被爆樹ヒノキの扱いは？→大切な宝物であり、被爆樹を残す前提で全体の配置を計画。その土地の特性や物語を継承することも大地派の特徴。

・ヒノキは樹幹で爆心地の方向を指し示し、高層アパートに守られ、共生している。

コメント

示唆に富んだ含蓄のある話が聞けた。建築家の職能も時代の要請に応じて変わっていかねばいけない。今の若い人たちも肌で感じていると私も思う。

(編集委員 瀧口信二)

○ 「時代を語り建築を語る会 (第18回)」 報告

語り人：衣川知孝氏 (カオル建設社長)

～広島地域における住宅リフォームの課題と取り組み～

豊富な住宅リフォーム経験を踏まえ、主に耐震改修と断熱改修についてノウハウを分かりやすく語る。

主催：時代を語り建築を語る会実行委員会 (代表：石丸紀興)

日時：2017年9月27日 (水) 18:30～20:30

場所：合人社ウエンディひと・まちプラザ



略歴：新木造住宅技術研究協議会 (新住協) 中四国九州支部事務局長 マスター会員、日経ホームビルダー『高断熱・高気密住宅』温暖地の結露カビ対策講師

☆ リフォームの概要

・様々な分野のリフォームに取り組んでいるが、多い順に①台所・トイレ・風呂などの水回り改修 (生活の利便性向上) ②屋根・外装などの改修 (劣化対策) ③断熱や耐震性の向上 (性能向上) ④庭などの整備 (趣味のため)。

・戸建て住宅では家族構成の変化や故障・劣化がきっかけとなり、リフォームのニーズが発生することが多い。

☆ 耐震補強

・昭和56年以前の木造住宅は現行の建築基準法の耐力を1とした場合、3分の1程度の耐力しかない。関東圏の人たちに比べると危機意識が薄く、耐震診断に対する市の補助制度を利用する人も少ない。他のリフォームのタイミングに合わせて耐震補強を加えることを推奨。

☆ 高断熱の家に住むことのメリット

・冬の寒さ、夏の暑さを和らげる高断熱の家は、脳梗塞や心筋梗塞を防ぎ、健康寿命を延ばす効果あり。良質な睡眠を可能にし、寒暖によるストレスを減らすためには、高断熱・高気密と換気によるCO₂削減、除湿などを効果的に行う必要あり。

・寒さの厳しい北海道ではその対策が進んでいるが、広島は遅れている。広島の気候に合った高断熱化に取り組んでいるところ。

☆ 快適性を向上させる

・断熱性を高めても気密性が悪ければ空調の効率が低下する。特に壁が煙突効果により気流が発生すると、部屋を暖房しながら壁が部屋を冷やしている。壁に気流止めを行うこと。

・掃き出し窓の上部にエアコンを設置するのが一般的だが、内側から窓側に向かって吹き出す方が効果的な場合が多い。ガラス面の結露防止にもなる。

・エアコンは埃が溜まるので、月1回程度は必ずフィルターの掃除を行うこと。効率が上がるので電気代が安くつき、寿命も延びる。

・エアコンに頼りがちだが、放射熱 (輻射熱) の方が体に良い。床暖房の暖め過ぎは体に良くないので、部屋の設定温度プラス2度程度に抑える。

☆ 質疑応答ほか

・リフォームと建て替えの判断基準は？→リフォームの良さは改善点が明瞭なこと。住み慣れて愛着があること。構造的に耐久性がなければ、リフォームより建て替えを選択。

・木造2階建ての2階部屋が夏は異常に温度上昇。対策は？→日射により高温になっている小屋裏を機械換気。外壁面もすだれ等で日射を防ぐ。

・リフォームの事例や概算などの予備知識を得る方法は？→リフォーム支援ネットを利用。

・日本の場合、中古の木造住宅は資産価値が低いので、更地にして処分が一般的。リフォームして価値を高めてから売却できるシステムの方が望ましい。その売却資金で老後は立地の良い中古の安いマンションを購入し、リフォームして快適に住むことを推奨。

(編集委員 瀧口信二)

○「時代を語り建築を語る会(第19回)」報告

語り人：鎌田七男氏(広島大学名誉教授)

～外部被曝と内部被曝—広島・福島ヒパク問題の本質に迫る～

広島原爆と福島原発事故の被害について放射能の原理から紐解いて具体的に分かりやすく語る。

主催：時代を語り建築を語る会実行委員会(代表：石丸紀興)

日時：2017年12月1日(金)18:30～20:30

場所：合人社ウエンディひと・まちプラザ

☆ 広島大学原爆放射能医学研究所(原医研)に入局

- ・昭和29年に米国のビキニ核実験で第5福竜丸が被曝し、放射能被害に対する意識が高まり、広島・長崎の原爆被害を想起させた。
- ・昭和32年に日本で唯一の放射線医学総合研究所(放医研)が千葉市に誕生。昭和36年に広大に原医研が開設。
- ・昭和37年、被爆内科設置を標榜し始めた頃、広大に呼び戻され、助手に付く。血液学を専攻し、昭和39年から染色体を研究し、昭和60年から遺伝子を研究。

☆ 放射能と放射線

- ・放射線を出す性質を「放射能」といい、図の炭火が放射性物質、赤い線が放射線、受ける側の線量の単位をシーベルトという。線量は放射性物質の能力(単位：ベクレル)と距離や遮蔽物によって変化する。
- ・原爆のエネルギーは瞬間的な熱線・爆風・初期放射線と残留放射線(死の灰、誘導放射能など)である。入市被曝は残留放射線による。
- ・中性子(初期放射線)が岩石等に放射するとガンマ線(残留放射線)を放出。初期放射線は線量が計算できるが、残留放射線は難しい。

☆ 原爆と水爆の仕組み

- ・原爆は広島の場合、ウランの核分裂により、大きなエネルギーを放出。水爆は水素の核融合による。融合させるためには超高温・超高压が求められ、原爆を起爆剤としている。
- ・太陽が何十億年も熱を放出し続けているのはなぜか?核分裂ではなく核融合であろうというのがヒントになった。生物の進化も太陽からの微量の放射線による突然変異を繰り返しながら、良性のものが残ってきた。
- ・原発はウランの核分裂を利用し、核燃料棒を水中から出し入れすることにより温度を調整。原発で発生する高レベル放射性廃棄物の処分が未解決。

☆ 外部被曝と内部被曝及び広島原爆と福島原発事故の違い(住民レベル)

- ・外部被曝は初期放射線及び残留放射線を体に浴び、内部被曝は食べる・吸うことにより体内に放射性物質を取り込む。
- ・広島原爆の特徴は、直接的な大量の初期被曝及び入市被曝、爆風や火事など。福島原発事故は、少量の慢性的な被曝、内部被曝を重視、知らぬ間に被曝、避難行動など。

☆ 放射線による障害の仕組み(放射線に弱い骨髄のケース)

- ・3.5～4シーベルトの放射線を浴びると半数が1か月以内に死亡。骨髄の場合、遺伝子に傷がつき、骨髄の再生機能が低下。リンパ球や白血球が減少し、感染力が低下して死に至る。
- ・1か月を乗り越えた人は骨髄が再生し始め、生き延びる。他の組織でも被曝時に遺伝子が傷つけられており、悪性腫瘍(白血病、甲状腺癌、乳癌、肺癌、他)の後障害を発症する。

☆ 質疑応答

- ・残留放射線のガンマ線はいつまで影響するのか?→広島の場合は、9月15日の枕崎台風で洗い流されて放射能は微少となる。それ以降の影響は少ない。



略歴：1937年生まれ、広島大学名誉教授、広島大学医学部卒、広島大学医学部附属被爆内科助手、同大学原爆放射能医学研究所教授、同所長を経て現在に至る、1999年中国文化賞、2017年広島市民賞、著書多数



図-放射能と放射線

・被爆者の癌の発症率は一般の人の何割増しか？→被爆線量と癌の種類によっても異なる。
一般論として被爆者は発症率が高く、重複癌を患う人が多い。

コメント

長年にわたって悪影響を与え続ける怖さだけはよく理解できた。

(編集委員 瀧口信二)